

呑川流域河川整備計画(原案)への意見募集において提出された意見と対応（基本的な考え方）

整理 番号	意見・提案	基本的な考え方
1	<p>呑川の上に蓋がされておらず、季節により悪臭がして、折角の環境を台無しにしています。そのため、上に蓋をすることで、悪臭を防ぎ、散歩道としても可能になるのではないかと思いますし、人を通行させなくても、整備することで環境のかなりの改善になると思います。</p>	<p>呑川は密集した市街地を流れる貴重なオープンスペースをなっており、生物にとっても貴重な空間となっています。そのため、良好な河川環境や親水空間を確保するための取り組みを行っていきます。</p> <p>河川整備計画(案)P12に記載しているとおり、潮の干潮の影響や大雨時に合流式下水道から汚水混じりの雨水が放流され、白濁化やスカム、臭気の発生など水質が悪化する状況にあります。そのため、呑川水質浄化対策研究会等の関係機関と協力し、引続き水質改善に取り組んでまいります。</p>
2	<p>春から夏にかけて水質汚濁、悪臭に悩まされています。とても都会の中を流れている川とは思えません。第二節（水質）に対策に取り組んでいると書かれています。水質汚濁の原因が降雨期における下水道の越流水の汚濁物質がたまり起こるのであることは周知の通りです。一番の対策は越流水を流さないことです。75ミリ降雨時の対応として5万m³、4万m³の調節池の計画が書かれているが、下水の越流水の対策として洪水（越流水）が解決できるよう検討してほしい。</p>	<p>河川整備計画(案)P25に記載されている調節池は、河川の水位が上昇した時に取水し、洪水による被害を軽減する施設です。</p> <p>しかし、下水の越流水を取水する合流改善は河川の水位が上昇する前に取水するものとなるため、越流水対策を同時に実施すると河川の調節池の機能が低減してしまいます。このため、河川の調節池に合流改善機能を持たせることは難しいですが、下水道局と連携し、効果的に調節池を整備する手法を検討していきます。</p>
3	<p>魚の遡上に関する野心的研究と実験をしてほしい。呑川を自然環境豊かに改造する要望は、いつも「時間雨量50mm対策」などに阻まれています。しかし、呑川の「最上流」まで魚を遡上させることは、それを求めてやって来る「野鳥」たちを増やす上でも、「ユスリカ」の卵を食べさせ、ユスリカの発生を抑えるためにも重要なことだと思います。</p> <p>魚たちの遡上にとって不可欠な、「浅瀬」や「深み」、「瀬や淵」、「植栽」などを、「洪水対策」を乗り越え、どう構築するかが課題だと思います。</p> <p>「洪水対策」を乗り越え、「都市河川」という状況下で、可能な手法を「技術的野心」をもって研究し、この「呑川」で実験して欲しいと思います。</p>	<p>呑川の河川整備は、河川整備計画(案)P25に記載しているとおり、河川整備は治水や河川管理上支障にならない範囲で河川環境の整備や保全を進めていくことを基本としております。</p> <p>洪水対策を実施する際には、治水や河川の維持管理上支障がない範囲で、魚の遡上等、生物に配慮した取組を検討していきます。</p>
4	<p>側道に桜や百日紅等の植栽を現状以上に進めてほしい。また、側道に植栽ができない箇所は川床に水生植物を植えること等をご検討願いたい。</p>	<p>側道の植栽については、安全な交通等を確保した上で、河川整備計画(案)P26に記載しているとおり関係自治体と連携して進めていきます。また、河床の植栽については、治水の安全性を踏まえた上で検討していきます。</p>

5	<p>「耐震補強」と「75mm/H 対策」は具体的であるが、流域の人々の「いやし空間」創出のイメージが描かれていない。形式的に「環境配慮」が記述されているだけである。流域の人々が、「これはとても良くなる、期待が持てる」という「整備計画」を提示してこそ、「呑川」への関心が高まると思います。そのため、環境面を重視した整備計画の発表をしてほしい。</p>	<p>河川整備計画（案）P25, 26に記載しているとおり、治水や河川の維持管理上支障のない範囲で、護岸の緑化や生物に配慮した取り組み等、河川環境の整備と保全を実施していきます。また、環境整備する際には、いやしの空間が創出できるように、関係自治体のまちづくりと連携を図っていきます。</p>
6	<p>川幅が広い所は親水公園とワンドを造って、魚たちが休息できる場所を造ってほしい。また、川幅が狭い所はコンクリートブロック状の物を側面側に斜めに6～7枚並べて流れを緩やかにして魚が休息できる場所を造ってほしい。</p>	<p>河川整備計画（案）P26のとおり、河川環境や治水安全との整合を図り、動植物や景観に配慮した整備を検討していきます。</p>
7	<p>久原地区の露出の魚巢は鳥が小魚獲得の場所になっているので。善福寺等のように、犬走り部分のところで魚巢用の穴を造ってほしい。</p>	<p>河川整備計画（案）P26のとおり、河川環境や治水安全性との整合を図り、動植物や景観に配慮した整備を検討していきます。</p>
8	<p>数多くの魚を上流域まで行き来させることやカルガモのヒナが大雨のたびに流されていなくなるを防ぐため、「仲池上児童公園」を利用してワンドを造ってほしい。また、公園の脇を通る道路の下をワンドにし、道路は橋とし、児童公園からワンドに下りられる階段を造ってほしい。このことで呑川に親水公園ができて住民が親しめる川に生まれ変わると思います。</p>	<p>既存の護岸構造物を考慮すると、道路下にワンドを造るために、護岸の一部を撤去し、トンネルのような構造に造り変えることは困難です。</p> <p>呑川の河川整備は、河川整備計画（案）P26に記載しているとおり、治水や河川管理上支障にならない範囲で生物が生息しやすく、住民が親しめる河川環境を検討していきます。</p>
9	<p>大田区は呑川周囲に緑地が他区（世田谷、目黒）に比べて少ない。側道周辺に公園用地を確保し将来の親水公園を計画されたい。</p>	<p>河川整備計画（案）P15に記載しているように、公園施設と一体となって水辺に近づける親水護岸を整備しています。呑川沿いで公園計画が策定された際には、治水や河川管理上の支障にならない範囲で親水護岸等を検討していきます。</p>
10	<p>側道下で呑川と繋ぐ親水公園、または親水階段を設ける案を提案します。</p> <p>親水公園とした場合呑川の水をトンネルで取り入れ池と植生を設ける。トンネルを介して野鳥や魚類も避難可能にする。また水辺に降りられることにより浮遊物の処理も早期に可能になる。公園用地の問題もあるが既存の公園を改造することでも可能とされます。</p>	<p>呑川の護岸は概成しており、既設護岸に穴をあけることは構造上弱点を造ることになるため、トンネルと公園を連結することができませんが、河川整備計画（案）P26に記載しているように、砂歴を敷いた窪地等、生物に配慮した取組を検討していきます。</p>
11	<p>側道下で呑川と繋ぐ親水公園、または親水階段を設けてほしい。親水公園とした場合、呑川の水をトンネルで取り入れて池と植生を設置し、トンネルを介して野鳥や魚類も避難できるようにしてほしい。</p> <p>また、水辺に降りられることにより浮遊物の処理も早期に可能になる。公園用地の問題もあるが、既存の公園を改造することで可能と思われる。呑川改善の歴史を子供たちに伝える公園にするのも一案であると思います。</p>	<p>既存の護岸構造物を考慮すると、道路下にワンドを造るために、護岸の一部を撤去し、トンネルのような構造に造り変えることは困難です。</p> <p>呑川の河川整備は、河川整備計画（案）P25に記載しているとおり、治水や河川管理上支障にならない範囲で生物が生息しやすく、住民が親しめる河川環境を検討していきます。</p>

1 2	P21 に記載されている河床掘削を実施することで、感潮域で河床を下げると塩分がはいりやすくなり、上流からの流量に含まれるリンや窒素が貯まって悪臭がもっとひどくなると懸念されます。その対策内容を示してほしい。	治水上の安全を確保するため、河床掘削を行う必要があります。また、河床掘削による感潮域の塩分の影響等の対策について、今後検討していきます。
1 3	今後 30 年を見通しての整備計画は河川のみならず都市計画等の関係もあり、短期と長期を分けて計画をたてる必要があると思います。	河川整備計画は中期的な計画と位置付けられています。また、河川整備するための工事等の短期的な計画については、関係機関との協議をした後に明確にしていきます。
1 4	1 時間あたり 100 mm の降雨は何を根拠に決められたものですか。	平成 26 年 6 月に公表しました東京都豪雨対策基本方針（改定）の P18 に記載しております。
1 5	中原幹線直後の雪谷地区は中原幹線に流出した流量だけ余裕があるはずですが、同様に各地にある下水吐口の直前の部分も下水吐口から想定されている流入量の分は余裕があるはずですが、そこでその中原幹線直後の部分、下水吐口の直前の場所に堰を設けその上流側に静水域を設けてほしい。 道々橋付近は近年の改修工事により河床に湧水口を設けられ、遡上するさかなの休憩場所になっています。しかし、新幹線鉄橋より上流地区にはそのような静水域がなく、魚の遡上を抑制する要因となっています。そこで前述のように計画流量に余裕がある個所に堰の設けることによる静水域の設置を要望したい。	河道の治水対策の整備水準を時間 50 ミリとし、流域対策を含めて 75 ミリに引上げました。そのため、河道の流下能力に余裕がなく、調節池の整備を実施する必要があります。また、下流部の中原幹線直後についても河道に余裕がない状況です。しかし、流下能力を阻害せず、治水安全が確保できる場合には、静水域の設置を検討していきます。
1 6	調節池 2 か所の整備を早期に整備する必要があるものと賛同します。調節池はいつまでに整備する計画なのかを明示していただきたい。	河川整備計画は概ね 30 年間の計画ですが、具体的な整備時期等については、関係機関等の調整を行った後に明示いたします。
1 7	超過洪水に対する整備計画はソフト対策も含め、もっと検討した方がよいと思います。	現在、水防法の改正等を踏まえ、超過洪水に対するソフト対策の検討しております。ご意見を参考に、引続き検討を進めていきます。
1 8	アンダーパス部は天井高さが低く急こう配であるため、護岸の耐震性は確保されておらず、大潮時に漏水が多く見られます。将来近辺の再開発に関連して効果に改造することを検討されたいかがでしょうか	漏水については調査を行い、適切に補修等を実施していきます。 また、再開発に関連した護岸改修については、ご意見を参考にさせていただき、今後の検討を進めていきます。
1 9	JR 東海道線のアンダーパス部は天井高さが低く、急勾配ですが、護岸の耐震性に問題はないのでしょうか	現在、JR 東海道線のアンダーパス部は耐震区間に入っておりません。アンダーパス部を含めた護岸の耐震化については、今後検討していきます。

20	<p>呑川沿いの「河川管理道路」は、「車の通行制限」のある、「遊歩道」にして欲しいと願っています。それを実現する為に以下の通行制限を検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住者のみの車両通行可 ・「プロムナード・タイム」を設け、一定の時間帯は車両通行不可 ・「プロムナード・デイ」を設け、土曜・日曜の車両通行不可など、お互いの折り合う「条件付・遊歩道」でも良いと思います。 	<p>河川管理用通路は道路としても位置付けられており、車両の交通規制については、交通管理者や道路管理者が実施するもので、河川管理者が車の通行制限を実施することは困難です。</p> <p>河川整備計画（案）P26にあるように、関係自治体と連携し、呑川沿いの景観を楽しみながら散策等ができるように努めていきます。</p>
21	<p>側道は車両がスピード出さないようジグザグにして植栽を多くしてほしい。</p>	<p>管理用通路は道路としても位置付けられており、車両の交通については、交通量や安全性を踏まえて、道路管理者が道路計画を策定しています。そのため、道路管理者と調整し、可能な所については植栽の検討をしていきます。</p>
22	<p>呑川の歴史、川に住む生き物、呑川を流れる水の水源や水質、川の見どころなどを表示した説明版を設置してほしい。</p>	<p>生物に関しては環境部局、川の見どころについては地元自治体で設置しますが、いただいたご意見は、今後の河川環境の整備をする際に参考にさせていただきます。</p>
23	<p>調整池計画のある九品仏合流点付近は、東急目黒線が通過しており、大岡山1号踏切にも近接しています。首都圏整備方針では、踏切の立体化についての言及があり、大岡山1号踏切も、遮断時間が長いことから、立体化の検討対象になるものと思われます。今回の呑川流域河川整備計画が、将来的な大岡山1号踏切の立体化の支障にならないように、河川法第16条の趣旨をふまえて、関係機関との調整をお願いいたします。</p>	<p>踏切の立体化事業が具体化された時には、関係機関と調整し、河川整備を進めていきます。</p>
24	<p>下流域に船の係留施設が十分にはありません。係留施設の整備計画も明示してほしい。</p>	<p>平成28年7月に係留船の重点適正化地区に指定をしました。今後は必要な係留施設を整備するとともに、適正化を図っていきます。</p>
25	<p>JR鉄橋下流地区では上流・中流地区と異なり、呑川は最低1mの水深は常に確保されています。そこで、この地区でボート遊びや観光船の周航等が出来るようにしてほしい。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の河川整備を検討する際に参考にさせていただきます。</p>
26	<p>呑川のJR鉄橋と弾正橋間の特に右岸の道路の一部を下げ、道路と呑川河面の間の高さに遊歩道を設置してほしい。JR蒲田駅と京急蒲田駅から近くであり、まわりの商店と一体となれば若いカップルのデートコースになると思います。</p>	<p>護岸は洪水や高潮から守るために必要な高さで整備をしています。護岸を低くすることは、治水の安全性が確保できなくなるためできません。</p>
27	<p>呑川全体をどのように考えていくかで計画を作ってください。周囲の環境も含む計画がないので、まちづくりに生きていくためにこの計画ではそれらが出ていません。大田区の計画が正しいかどうかは意見のあるところですが、大田区の動きと比べて、都の計画は呑川を変えていくものになるとは考えられません。</p>	<p>河川整備計画（案）P26に記載している大田区景観計画には景観形成重点地区に呑川が指定されています。大田区のまちづくりの取り組みと連携し、周辺環境を考慮した呑川の河川整備を検討していきます。</p>

その他ご意見

「仲之橋」～「根方橋」を「生きものユートピア」に ---

1997年当時、「呑川」では初めて本格的な植栽・アシ植栽が行われた。しかし、この実験的な試みは、雨天時の濁流で流され、ほどなくアシ植栽は消えた。しかし、この場所に藻類が繁茂し、「生きもの」たちの「楽園」となった。ギンヤンマがやって来て、オオカナダモに産卵をした。深みのあるこの区間は、水がゆったり流れ、魚たちはここで休み、英気を養ってさらに遡上を進めた。ウナギもこの場所に多くいて、カワウが捕獲するのを多くの人が目撃した。このように上記区間は、最近まで「生きものユートピア」であったため、その復活を急いで欲しい。

鴨川がない京都を想像すると先斗町と祇園は隣り合わせで便利にはなりますが、全体として非常に殺伐とした印象になるでしょう。鴨川があるから錦市場の雑踏を楽しむことができます。ことほど左様に川の力は大きいと言えますが、翻って呑川をみた場合、残念ながら呑川はマイナス・イメージになっています。その証拠に JR 蒲田と京急蒲田の間の建物はほぼ呑川に背を向けています。しかし本来 川は京都における鴨川のように まちのシンボルになりうる存在であり、呑川も大田区の真ん中を西北から東南に貫流し、大田区のシンボルになり得るはずで。そのイメージは例えば呑川の両側には樹木が植えられ、上流地区は子どもたちがさかな取りなどの川遊びができ、蒲田地区は呑川沿いの遊歩道が若い恋人のデートコースに、下流地区はボート遊びが楽しめる川はどうでしょうか。呑川の現状からみれば夢のような話ですが、私たちはそのような姿を目指していますし、多くの人も無理とは思いますが希望としては持っているものと信じます。

過去に害があった呑川の流域近くで生活しており、災害の発生の防止軽減に資する、今回の呑川流域河川整備計画に全面的に賛同します。計画記載内容についても、非常に分かりやすくまとめておられますので、敬意を表したいと思います。

呑川流域河川整備計画（案）の計画の基本理念である

「災害に対してより安全であり、人々に親しまれる水と緑の憩の場となる川をめざして」は大変に素晴らしい考えだと思います。

呑川は長い歴史の中で、私たちの生活環境の一部となり、魚が泳ぎその魚を追って鳥たちが飛来する自然豊かな川となっています。この大切な資産である呑川をたくさんの人たちに知ってもらい、永く守っていかねばなりません。

呑川の側道を歩いていると、散歩している人たちを沢山見掛けます。その人たちは時々川の中を覗き込み、カルガモやコサギなどが居れば立ち止まって様子を見ています。

コサギは小魚を追いかけてますがなかなか口にできません。近くに寄ってみると覗き込んでいた人たちが、「じっと待っていればいいのにね」と話かけてきます。川に来る生き物たちは

私たち人間のコミュニケーションさえも作り出してくれているのです。今では、最上流の島畑橋にコサギがやって来ます。小魚がここまで溯上している証しです。

このような環境を私たちが次の世代にも引き継げるように尽力すべきではないでしょうか。現在、池上橋から新幹線の鉄橋までは、先人たちがいろんな工夫をして生き物たちが住みやすい環境を造り出してくれています。